

平成25年度 終了評価書

研究機関 : (株)エヌ・ティ・ティ・データ、(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ、マズプロ
ロ電工(株)、東北大学電気通信研究所、日東紡音響エンジニアリン
グ(株)

研究開発課題 : 多様な通信・放送手段を連携させた多層的な災害情報伝達シ
ステムの研究開発

研究開発期間 : 平成 23年度 ~ 平成24年度

代表研究責任者 : 水野 大

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価 A

■ 総合評価点 : 24点

(総論)

多くの住民に確実な情報伝達を行うため、当該災害情報伝達システムの開発は極めて意義がある。一部検討課題も残したが、研究開発目標は十分に達せられたと認められる。

(コメント)

- 緊急を要する災害情報を複数の配信メディアを駆使してより多くの住民に、より確実に届けられるシステムの開発は極めて意義がある。
- 研究開発目標は十分に達せられた。商品化を通じた社会展開が望まれる。
- 当初目標は達成しているが、災害時を想定し、プラットフォーム自体を分散化するなど、アーキテクチャの検討とその実現の検討が今後必要である。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

当該災害情報伝達システムの開発・実証は極めて意義深く、有効性・必要性は著しく高まっている。また、本研究開発成果のような情報伝達システムの開発は、国が推進する研究開発としても政策的に意義があると認められる。

(コメント)

- 東海・東南海・南海三連動地震が想定されている今、より確実かつ迅速に災害情報の伝達が可能な多様な通信・放送手段を連携させた多層的な情報伝達システムの開発・実証は極めて意義深い。
- 目的の有効性・必要性は著しく高まっていると認められる。
- 屋外拡声音声の検討は学問的にも面白い。
- 情報処理のミドルウェアの構築は、多様な環境における災害への対応として重要である。災害情報に関しては、市場は大きくないため、その開発に国が牽引することは政策的にも意義が認められる。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

研究開発を分担した5機関の連携が効率的に行われたほか、研究開発運営委員会も効果的であり、研究開発マネジメントは妥当であったと認められる。

(コメント)

- 研究開発を分担した5機関の連携が月例定例会議の開催や共通のプロジェクト運営ルールに遵守により効果的に行われた他、研究開発運営委員会も効果的であったと評価できる。
- 研究開発自体のマネジメントは、妥当であったと評価できる。

(3) 研究開発成果の目標達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

複数の配信メディアを活用し、地域住民により確実に情報を伝達するシステムが開発され、当初の目標を十分に達成したと認められる。

(コメント)

- 緊急を要する災害情報を複数の配信メディアを活用して並列的に伝送することにより、位置や状況に依存しないで住民の誰にもより確実に届けるシステムが開発され、実証実験を成功裏に行ったことは特筆に値する。
- 目標は十分に達せられたと認められる。
- 当初の目標を達成したと評価できる。音声の到達度を向上する機能に関して新たな成果として認められる。

(4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

研究開発成果の社会展開のための活動を十分に行っていると認められる。

(コメント)

- 大変活発な社会展開のための活動実績が認められる。
- 研究開発成果の社会展開のために十分な活動を行っている。
- 社会的な展開を多く行っており、活動実績は認められる。

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

商品化、自治体への導入提案、海外展開のほか、広報・普及のための協議会設立が計画されており、研究開発成果の社会展開のための計画が充実していると認められる。

(コメント)

- 商品化、自治体への導入提案、海外展開ほか、広報・普及のための協議会の立ち上げが計画されている。
- タイムリーな商品化を期待する。
- 海外を含めた多くの計画が予定されている。またその結果をフィードバックする姿勢も評価できる。